

みなみうわ俳句会

朝まだき歩き遍路の軽やかに
生醬油のきらりと光り初鯉
真つ青な海の展望夏きざす
ペンを執る窓辺に映る若葉かな
牡丹散る艶やかなまま地を染めて

木村 智子
濱 初榮
清水 麗子
竹村 勝利
中川 千代子

西海俳句会

のどかさ夕べを朝と間違える
地震きてのどかな生活奪われて
鯉川風受けてスーイスイ
七月の夜風に妻の髪匂ふ
沖風と緑の風と玻璃磨く

吉田 笑代
利根 早智江
吉田 朝子
吉田 勝也
吉田 弘定

檳榔子俳句会

花莫蔭や這ひ這ひの児のロンパース
春の宵廊下に響く長電話

泉 くらら
吉田 朝子

花莫蔭の模様をなぞる昼の雨
花莫蔭の花をつまみし稚の指
花莫蔭や母との暮らし短くて
沙羅の花筋書き通りに逝きし人
花莫蔭の色の褪せたる仏間かな
あぢさゐの鞠踊らせて峡の雨
山家には山家の生活椎の花
島戸塞く烏賊火星座を組むごとし

五島 節子
山口 和子
山口 董
濱野 康子
田中 博子
三好 ミキエ
吉田 モミエ
井上 論天

内海俳句会

水平線紫紺一線ひいて夏
棚田早や水をたたえて緑なす
緑蔭に座して独りの刻憩う
天地の静寂えなたる蝉時雨

太田 信子
岩森 十志子

▶句集をご紹介します

『兄弟二人の句集 愛南』吉田敏夫さん・吉田朝子さん

ふるさと(旧西海町)を離れ、現在奈良市で暮らす吉田敏夫さんは、13年前にパーキンソン病を発症し徐々に体の自由がきかなくなってきました。長年俳句に打ち込んできた吉田さんは、以前から句集を作りたいと思っていたそうで、自身の現在の体調面を考慮し、今しかないと発行を決意。



町内の句会で現在も活動している妹の朝子さんとは協力し制作を進めました。兄弟二人で作った句集は、役場本庁総務課や西海公民館に置いてありますので、ぜひご覧ください。

飛び入りで一句

ジムの床みどり我が足はボレロを踏むている 吉田 敏夫